

受けてください、命を守る大切な検診

がんは、早期発見すれば90%以上が治ります

問 保険健康課 ☎84-0327

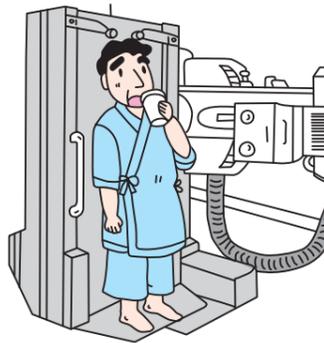
神奈川県のがん死亡者数は、平成24年には約2万2千人で、総死亡者数の3割を占めています。また、若い世代のがん患者も増加しています。しかし、がんは早期発見と早期治療で、治る率が高まります。

町が実施するがん検診は、実際にかかる費用よりも安く受けることができます。ぜひ、この機会に検診を受けてみませんか。

胃がん検診 40歳以上

がんを早期に見出すためには、自覚症状のないうちから検診を受けることが何よりも大切です。早期がんの発見にはがん検診が欠かせません。がん検診は、1年に1回（婦人がん検診は2年に1回）受診しましょう。

バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、レントゲンで胃の小さな病変を映し出す検査です。



肺がん検診 40歳以上

胸のレントゲンにより肺の病変を診断する検査です。喫煙状況や職歴、自覚症状等により、危険性の高い方のみ、痰にがん細胞が混ざっていないか調べる喀痰細胞診検査があります。



大腸がん検診 40歳以上

自分で便を取って提出するだけの簡単な検査です。がんやポリープなど大腸に異常があると出血がみられます。便を取り、血が混じっていないか調べます。

集団検診では、事前の申込により容器を渡しますので、2日分の便の検体を提出してもらいます。代理の方の提出も可能です。



手軽にできる大腸がん検査キット

大きく影響するため、町では胃がんリスク検診を実施しています。

対象者は、今年度40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳になる方です。血液検査によって、ピロリ菌に感染していないか、胃粘膜に病変が出ていないかを調べます。

感染している場合は、精密検査で胃内視鏡検査を行い、状況により胃がんの予防のために飲み薬で菌を除く治療をします。

9月3・4・5・7・8日の特定健診（集団）と同時に実施します。町国民健康保険加入の方は、特定健診と同時に受診できます。他の医療保険加入の方は、この検査のみ血液検査で調べます。一度も検査したことがない方は、この機会にぜひ申し込んでください。



胃がん検診アンケートを実施しました

町ではがん検診の受診率向上を目指し、平成26年12月に、町の胃がん検診、胃がんリスク検診を受けていない40～50歳代の方を対象に、アンケートを実施しました。

これは、受診勧奨を兼ねて、胃がん検診未受診の理由の把握と、受診率向上の方法を検討するためのものです。

アンケートの結果

町の検診を受けていない人も、人間ドック、職場健診などですでに受診している人は695人で、全体の57%の方が胃がん検診を受診していました。「これから受診予定」の方も含めると、約70%になりました。

「日程が合わない」などでした。また、その他の理由では、「丈夫なので検診の必要性を感じない」「2、3年おきに受診している」「検診の実施を知らない」「広報を見逃した」などがありました。

町のがん検診や健康づくり事業に関する意見

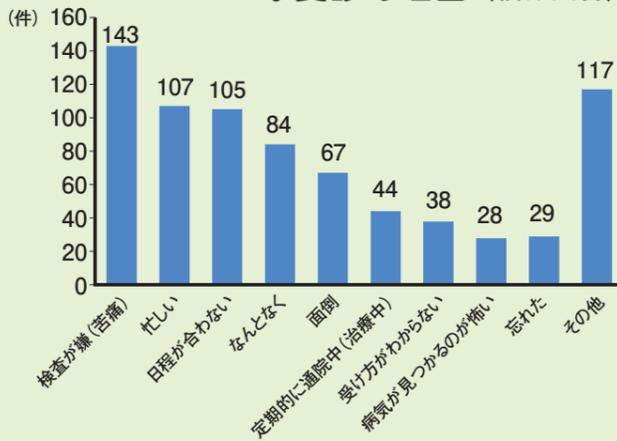
- ・ 検診、健康づくり事業の休日実施希望
- ・ 検診方法の変更等への意見
- ・ 検診等の個別通知の希望
- ・ 町のPR不足
- ・ などに関する意見がありました。

27年度のがん検診は…

- ・ アンケートでの意見を反映して、多くの皆さんが検査を受けることができるよう次のとおり変更します。
- ・ 集団のがん・大腸がん・肺がん検診日の1日を土曜日にします。
- ・ 秋のみに行っていた子宮頸がん・乳がん集団検診を秋（11月）2回、春（2月）1回実施します。

通知送付者数	4,052人
回答	男性 581人 女性 636人 計 1,217人

未受診の理由（複数回答）



5月20・21・22・23日 胃・大腸・肺がんの集団検診を保健センター前特設会場で行います。

今年度は土曜日にも実施します。

40歳以上で、前回検診から3年以上受けていない方、新規希望する方はお申込みください。

胃がん検診は、安全上、完全予約になります。

なお、胃や肺の病歴がある方は、集団検診では精密検査になる可能性が高いため、治療していた医療機関での経過観察をお勧めします。

胃がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がんの検診については、指定医療機関での個別検診も実施しています。

今年度**41歳46歳51歳56歳61歳**になる方は**無料**で大腸がんの検診が受けられます。

希望者には容器を送りますのでご連絡ください。

